

大いなる飛躍へ

 JA上川中央

初春

2015
NO.82

発行・上川中央農業協同組合
愛別町本町125

Tel(01658)6-5315

URL <http://www.ja-kamikawa.or.jp/>

編集・営農振興課

1



新年にあたり

上川中央農業協同組合
代表理事組合長 新井光雄

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、輝かしい新年をご家族とともに迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年の農業生産につきましては、春先は気温が高めに推移したものの、8月には大雨により一部の農地が冠水被害に見舞われるなど、大変ご苦労の多い年でありましたが、水稻においては作況指数の上では豊作となりました。しかし、8月以降の連続降雨と日照不足の影響で、うるち米においては登熟がバラツキ、青死米や乳白腹白米が多発するなど、高温多雨による品質低下がみられ、加えて全国的な米の需給緩和状態が米価に大きな影響を及ぼし、生産者の努力が報われない厳しい出来秋となりました。

昨年の事業推進に当たっては、ますます高度化・多様化する組合員の価値観やニーズに応える体制整備について、まだまだ不十分であったと認識しております。JA経営を取り巻く環境も激しく変化しており、その変化に俊敏に適切にできる経営が求められております。そのことを踏まえ、これからのJA経営は、現場において発生している問題や課題を現場で解決していける現場力を強化する必要があります。個々の事業の専門性を高めてまい

りますので、なお層のご理解・ご協力をお願いいたします。

農業政策等に関する状況につきまして、TPP交渉と規制改革会議におけるJA改革をめぐる対応に惑わされた年でありました。

TPP交渉につきましては、当初目標とされていた年内妥結は越年となりましたが、アメリカの中間選挙において自由貿易を強く主張する共和党が勝利し、より関税撤廃要求が強まる懸念があります。

また、規制改革会議におけるJA改革は、競争原理色の社会、その競争で生き残った者が支配する社会をつくるため、農業分野においてJA解体や弱体化を意図していることは明らかで、二人は万人のために、万人は入のためにという協同組合理念をよりどころとする我々の目指す改革とは大きな温度差があります。

我々は、今度、組合員や地域のお客様のためのJAであるという基本をしっかりと認識したうえで、今後より一層、地域農業の価値を高め、魅力あるものにするために、自らの意志により自己改革を実行し、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を果たしてまいります。

昨年末、「大義がない」と批判された突

然の衆議院解散と、その後の総選挙における大勝により、これまでの政権運営が是認された形で再スタートを切った現政権であります。選挙戦において、TPP交渉と国内農業の方向付けや農協改革論、地方経済対策などの重要課題の論点整理が成されないままの選挙結果でありました。これでは、従来の政府与党体制の進め方がますます加速するのではないかと懸念され、なお層の農政活動の展開が必要と考えます。

しかし、国のリーダーの考えがどうあろうとも、我々の地域農業を守り発展させ、次世代につないでいくためには、農と食に対する消費者の理解を得ることが肝要であります。それには、組合員とJAが体となり、我が地域農業の魅力を強力に発信し続けることではないでしょうか。そのためには、組合員皆様のJA結束力をますます強めていただき、協同運動を強力に展開する必要があります。JAとともに地域農業の未来を守り、そして切り開いていきたいと思います。

結びになりますが、組合員並びにご家族皆様方のご健勝と、本年が天候に恵まれ豊稔の出来秋を迎えることができ、ますます心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

謹賀新年

代表理事組合長	新井光雄
代表理事専務	野口昇
理事	久保田幸夫
理事	久米啓一
理事	辰巳真
理事	大村正利
理事	土屋陽一
理事	清野英人
理事	山中護
信用担当理事	松嶋光章
兼金融共済課長	
代表 監事	多羽田光雄
監事	関行男
員外 監事	奥山勲
参事	木村悦明
内部監査室長	奥山智尚
総務課長	奥山春彦
営農振興課長	須賀成浩
営農販売課長	福島慶喜
購買経済課長	鈴木隆之
生活課長	井上裕也
上川支所長	端場誠二



平成二十七年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、ご健勝にて輝かしい新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。さて、昨年の北海道農業は、地域差・個人差があるものの、おおむね順調な作柄となりました。皆様方におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げます。

平成26年は午年（うまどし）でありましたが、農業・JAをとりまく個々の情勢変化に加え、年末には、衆議院議員選挙が実施されるなど、まさに激動の一年でした。かかる情勢の中、我が国の農業をはじめ国民生活のさまざまな面に大きな影響を及ぼしかねないTPP交渉に関しては、関係国の首脳・閣僚・交渉官等による各種合弁並に交渉が継続的に行われています。

昨年の11月10日に行われた関係国の首脳会合では、結果として大筋合

意には至らず合意の目標時期も明示されませんでした。協定の早期妥結に向けた取組みをさらに進めていくことなどを確認し合った経過にあり、今後とも予断を許さない情勢にあります。国のかたちを大きく変容させかねない重大な交渉であるにもかかわらず、依然として具体的な情報開示がなされておらず、国民不在のもとでの交渉に大きな不安と憤りを感じざるを得ません。

国会決議の順守とともに我が国の将来に禍根を残すことのないよう、今後とも政府・与党への強力な働きかけを行いつつ、国民世論の形成に向けた取組みを展開して参ります。

一方、政府は規制改革会議における答申を踏まえ、平成26年6月に「規制改革実施計画」を閣議決定し、農協系統組織に自己改革を求める内容を示しました。その後、JAグループ北海道として全道の組合員に参加いただいたうえで組織討議を実施し、頂いたご意見・ご要望をも

とに、「多様な価値観にこたえる北海道農業」・「時代に即した協同組合への改革」を柱とした「JAグループ北海道改革プラン（実行計画指針）」をとりまとめました。

今後、その内容を踏まえ、必要な環境整備に向け政府・与党に働きかけを行うとともに、組合員の皆様方と力を合わせJAグループとしての機能・役割をより一層発揮し、国民各層の理解醸成をはかりながら、改革プランにもとづく事業展開を積極的に推進してまいりたいと存じます。

世界規模での異常気象の発生、人口増加、新興国の経済情勢の変化などを背景に、国際的な食料の需給事情は不安定な要因を抱えており、先を見据えた中で、食料の安全高保障をいかに確立していくかが問われています。自国の食料は可能な限り自国で賄うべきは、国家が存立していくうえで必要不可欠な取組みであり、我が国の農業の位置づけ・役割

を再認識したうえで、農業の持続的発展をはかっていくという国としての基本姿勢のもとで、必要な政策展開なり関係者の自助努力を精力的に進めていくことが重要であります。

併せて、いまや農業は国民の理解と協力なくしては成り立たない産業であり、農業・JAの実態や取組み、農業・農村の多様な魅力を発信し、国民各層の理解醸成につなげていくことが肝要であります。ややもすると、経済合理主義のもと、効率性や競争が豊かな暮らしの道しるべになるとの風潮がありますが、それぞれの地域や国の実情、多様な価値観を踏まえ、真に豊かな暮らしを追求し実現していく姿勢が今まさに必要ではないでしょうか。

今年の干支は未年（ひつじどし）です。群れをなす羊は家族の安泰を示し、いつまでも平和で暮らすことを意味します。改めて家族や農村社会の結びつきを大切に、地域農業・地域社会の共存共栄を目指し、ともに頑張ろうではありませんか。

結びになります。本年が天候に恵まれ実り多い年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。



JA YOUTH

JA上川中央 青年部



愛別支部 部長

中山 英人

新年のご挨拶

新年明けましておめでとございます。

組合員の皆様と新しい年を迎えられたことを大変うれしく思います。

皆様方には、青年部事業に対し、ご理解とご支援、ご協力頂き心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、天候は平年に比べ4月以降順調に気温も高く日照時間も長い日が多く恵まれていましたが、8月上旬の大雨では、川が氾濫したり山際の土砂が崩れるなど被害がありました。私が農業をしている協和地区では、ため池が決壊し畑が海になったり土砂で畑がつぶされたりと被害が多かったように感じます。

秋作業では悪天候により長期間での稲刈りとなりました。出来秋は成長が途中で止まってしまふ「青死米」や高温障害で色が白くなる米が多くでしたが、幸いにも上川管内の作況指数は108、愛別に至っては118と豊作の年となりました。

昨年の青年部活動を振り返りますと、愛別神社祭での神輿担ぎに始まり、圃場視察研修では資料課や各メーカーの方々に協力して頂き愛別と上川の圃場を見学しました。

町外研修ではJA帯広かわにしの長芋の工場や帯広の国際機械展を視察し有意義な研修になりました。きのこの里フェスティバルの百姓一揆炊きでは過去最高の売上を上げるなど、大盛況に終わりました。他、上青協活動の参加、各会議にも参加してきました。今後は、2月に道青協事業の道外研修に3名程参加する予定になっています。

今後の農業を考えると問題は多く、先日の衆議院選挙では自民党が圧勝しましたが、これ以上悪くならないようTPP問題や農業政策を考えたいと願うばかりです。

自分達の出来る事を、青年部として考えや思いを、JAや関係機関に対して現場の意見もわかってもらえるよう伝えていければと思います。

今後も青年部、女性部、農協職員、関係機関、行政の方々と団結して、厳しい農業情勢を乗り越えていければと思います。

最後に本年が組合員、関係機関各位の皆様方にとって幸多き、実り多き年となりますよう心からご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。



上川支部 部長

渡辺 友章

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとございます。

組合員の皆様と共に新しい年を迎えることができましたことをとても嬉しく思います。

皆様には日頃から青年部活動に対し、深いご理解と多くのご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、日本各地で大規模な自然災害が数多く発生いたしました。とりわけ、御嶽山の噴火では火山エネルギーの強さをまざまざと見せつけられました。

農業は大地の恵みを扱う職業ですので、自然の驚異と恩恵を深く考えさせられる一年となりました。

昨年の青年部活動を振り返りますと、多くの仲間・盟友と交流し、親睦を深めることができた一年でした。豊稔祈願祭と収穫感謝祭には多くの方々に参加をいただきました。夏には購買経済課と肥料メーカー等の関係機関にご協力いただき、愛別支部・上川支部合同での勉強会・懇親会がありました。また、昨年はこれらの活動内容をJA上川地区青年部大会において、実績発表をする機会もありました。そして11月には海外視察研修と道内先進地視察研修を行い、多くのことを学ぶことができました。

農業を取り巻く環境は依然として厳しいですが、我々青年部員は自らで農業の未来を切り開く覚悟と情熱を持ち、関係機関の皆様と協力して農業を、地域を、そして日本を明るくしていければと思います。

最後に、部員一同ならびに組合員、関係機関各位の一層のご指導、ご協力を賜りますようご祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



JA上川中央 女性部



愛別支部 部長

藤原 幸子

年頭のご挨拶

希望に満ちた新春をご家族様おそろいでお迎えのごこととお慶び申し上げます。昭和30年に農協婦人部が設立され、平成17年度にJAあいべつ女性部として50周年を迎えました。その記念行事が盛大に開催され、記念誌「きすな」も作られました。20年には、愛別町農業協同組合から60年の幕を閉じました。女性部も本川中央が発足し、愛別町農業協同組合から60年の幕を閉じました。女性部も本27年度は60周年の節目となります。月日の経つのは本当に早いもので、諸先輩の方々が残してくれた貴重な足跡を偲び歩んだ、友が友を呼び共に手と手合せて今があります。この一年は、「農協改革」やJA組織への参画、そして女性部のあり方等々、各地域で部員同士話し合えることを願っております。ちよつとした女性の視点(気づき)がJAを変えたいと言われます。

さて、昨年11月に上川地区女性部管外役員視察研修に参加する機会があり、他地区の15名と役員相互の親睦と交流も深めることができました。ホクレン販売本部では、北海道外販売、販売本部の組織体制、各品目部門業務、販売企画室の業務について説明を受けました。最近の米穀販売情勢で北海道米は銘柄の認知度向上と共に品質・食味も含め、お米のブランドとして認知・評価を頂けるようになったことや、テレビCM「マッコ・テラックス編」の効果は大きいとのことでした。担当して下さった販売企画室長は愛別町出身の土産様でした。JA全中では、理事監事控室の額が目に止まりました。それは「不農何食」というもので、宮脇朝男氏の書です。わが国には古来「農あらずんばなにをか食まん」という言葉があるように、人類の生命の源である食糧を作りだす所に農業と工業との違いがあると考え、食は命なり、農なくして食能わず、これが農業哲学の根本であるこの意味です。

横浜野積倉庫では、テナント倉庫の実態と「日本に於ける輸入農産物の現状と課題」として、横浜港湾労働組合の奥村氏から説明を受けました。野積み食品は地方の特産品に化ける、野さらしの輸入食品、農業が残留した肉を食べると子供に影響もあり、安心できない検査体制等々、輸入食品の安全性について、知れば知る程国産が良いのはわかるが、全て日本だけでまかなえるだろうか。食べてもホントに大丈夫かしらっ?と疑問を抱へ、いつまでも腐らない果物...等々、健康と安全を守るためにはどうすればよいのだろうか?と、農を生業とする私たちは深く感銘いたしました。

本年も良いことがたくさんありますように心がかり願ひ、ご挨拶とさせていただきます。



上川支部 部長

辰巳 明美

新年のご挨拶

謹んで初春のお慶びを申し上げます。光陰矢の如し、あつこう園に2014年が終わりでしたが、今年も大事なく新年を迎えることができ、心より嬉しんでいます。農産物の作物を見ましても、大きな不作もなかったように思いますが、コメでは遅れ種の多発から青米が多かったことや、播種後に続いた干ばつから大豆なども出芽がばらつき、製品の粒々ろいが悪かったことなど、気候変動の片鱗を感じさせます。昨年は道内ではじめて大雨特別警報が発令されるほどの豪雨が降った一方で、6月には全国の「最高気温」ランキングのトップ10を北海道が独占し、北海道の最高気温の記録を更新するほどの暑さに見舞われました。近年の異常気象が農作物に与える影響も心配ですが、広島県の凄惨な土砂災害や、自然災害といふことで、長野県原野の御嶽山の噴火災害など、人命をも脅かす天災がいつ起きてもおかしくないといふことを常々肝に銘じなければと痛感しました。

さて、昨年度の女性部活動を振り返りますと、道女性協議会における「JA女性部組織活動体験発表大会」において北海道代表に選出され、東北北海道大会に参加することができました。私たちの上川支部における地元密着型の活動をお伝えできたことと、ほかの地区の支部活動について受け継がれてきた歴史を尊重しながら新たなチャレンジを続けることで積極的に仲間づくりを進めている姿勢なども学びたいと思っております。ほかにも、JA上川地区女性部管外役員視察研修には愛別支部の藤原部長を含め上川中央として3名が参加いたしました。とりわけ、JA全中において女性のJA運営参画の推進について講演いただいたことがとても印象的でした。全国と比較して北海道における女性のJA参画状況は、とても低い、耳の痛いところでもありますが、言い換えれば女性参画による農協全体を発展させる余地がまだまだ残されているといふことなのだと思います。「男女平等」や「女性進出」そのものを目標とするのではなく、女性参画といふ方法によってJAをよりよいものにしていくという意識が重要であることを学びたいと思っております。

冒頭に申し上げたように、なかば「常態化」しつつある異常気象においては本年の作物も業績視できませんが、やはりこれも例年同様、先行き不透明ながらも打ち出さず、昨年よりは減収制度「戸別所得補償制度」の見直し廃止、農協改革なども打ち出されました。もちろん、大いに納得できる内容とはとても言い難いところではありますが、その一方で、いまの農政に基づいた農業や農協のあり方を改めて考えなおす戦略に立たされているのではないかと、いつも思っています。ビジネスのため、消費者のため、それと兼ねいながらも、決して私たちが栽培のために農業をしているわけではないのです。誰のために、どのような作物をどのような栽培のために、どのように販売するのか、その過程における農協の役割と存在にか、これまで以上に前向きな生産活動の流れを、もう一度、女性の視点から見つめなおすこと、そこからJAへの女性参画が始まることを考えております。本年がその第1歩となりますように、部長として誠意努力して参りたいと思っております。

最後になりますが、部員並びに各関係機関の皆様には女性部活動へのさらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。皆様にとりまして、実り多き年となりますように祈念申し上げます。新年のご挨拶に代えさせていただきます。

店舗経営の方向性を…

JA上川中央役員視察研修

12月2日～4日の3日間、わたり道内の先進地及び今回店舗経営の方向性を決めるべく参考としたい新店舗（Aマートみついし店）、米転作で拡大が期待されている飼料用米の取引先との意見交換を行いました。

初日は浦臼町にある（株）神内ファーム21を視察、古河専務より会社設立に至る経過と施設の概要について説明を受けました。その中で社長の長年の夢であった『いつか北海道で農業をしたい』という50年の想いが70歳で偶然のように北海道で600haの土地が手に入るとい話が舞い込んできて実現したのがこの農場の第1歩です。又「克冬制夏」をコンセプトに雪を克服するため植物生産工場を建設、延べ2675坪の施設にはハイクを駆使し天候に左右されない野菜を栽培する研究を行っています。

その中でも、北海道農業者が考えもつかない南国果実のマンゴーを主に10種類、柿、ぶどう、水耕栽培で野菜も生産をしている。この生産施設の問題点は燃料費のコストが全体経費の6割～7割を占めていて、改善策として昨年より太陽光発電にも取り組み売電収入を確保しているが冬の電力に課題もあるそうです。

又、肉牛を道内4農場で黒毛と赤毛を3千5百頭程飼育、現在赤毛に力を入れてCMでも展開している。大規模施設、経営内容のノウハウ、新規就農の苦労話を聞かせていただき大変参考となりました。

午後からは北海道キッコーマン醤油を視察し、醤油ができるまでのビデオ解説と工場見学を行いました。

2日目は今回視察の目的であったJAみついしのAマートみついし店を視察、本年度6月にオープンした経

過と事業概要の説明を受けました。

店舗は58坪（職員7名）と小規模店舗をそのままの状態で見学、発注システム等物流の仕組み（ホクレン↓全日食チーン）を変えて営業している。

これにより自動発注された商品がチーン本部よりパック商品で納品されることから生鮮担当（肉・魚）による作業が無くなり労働費の圧縮を図ることができ、現在の仕組となる。現在人員整理が行われていないが、来年度には実施予定とのこと、また始まったばかりで今後の売上の状況はわからないが大幅な売上増加が見込めないことから、事業収支は厳しいとの説明がありました。JAみついし組合長より2、3年後には改めて方向性を決めることになるとの話をされていました。

午後からは、帯広市にて飼料用米の取引業者（株）ライスフィールドとの意見交換会を行い、現在の飼料用米の状況と今後の動向について説明があり、大変参考となりました。

最終日の午前中は音更町にあるよつば十勝主管工場にて、乳量の現状と牛乳ができるまでのビデオ説明及び生産ラインの視察を行いました。

午後からは足寄に向かい当JAの飼料用米WCSおよび飼料用粉米サイレシの取引先である農業生産法人（有）足寄ひたまりファームを視察、沼田社長より会社の概要及び飼料用米の給餌による効果や今後の想いを熱く語っていただきました。

又、愛別の飼料用米を食べた牛肉に「愛寄牛」と命名しブランド肉として町内焼肉店や道の駅などで販売するなどの独自展開をしており、当JAとしても何となく力になれないだろうかという思いが募るほどの人間力のある好青年でした。

今回の視察を通じ、学んだ情報やネットワークを新事業年度の計画に取り入れて参りたいと思います。



ブランド製品化…

JA上川中央青年部

上川支部道内視察研修

11月25日から2日間、JA青年部上川支部の道内視察研修として十勝地区に行ってきました。1日目の西上加納農場は、酪農部門ではわずかに9年で年間出荷量1万トン超のギガファームに成長し、搾乳牛1千頭を目標に更なる進化を遂げている牧場をまのあたりにし、桁違いの規模に皆度肝を抜かれました。

2日目の視察先の前田農産食品合資会社では、作物（小麦・甜菜・豆類、他）の栽培から管理、栽培技術の管理とシステム化、小麦の調整作業、更にはこだわりぬいた小麦のブランド製品化などもおこなっており、地域に根付いた努力と情熱を感じました。

この視察を通して、TPPや担い手不足などの問題がある中、自らの手で地域を盛り上げ、将来につなげていこうという姿勢に感銘を受けました。





仕事は楽しく、余裕をもって…

ドイツ・オランダ・フランス海外視察研修参加報告(JA道青協)
JA上川中央青年部 上川支部 高畠 和寛

今回JA道青協の41回目の海外研修へ11月2日～10日の日程で、ドイツ・オランダ・フランスに行かせて頂きました。

① バイオダイナミック農法・ドッテンフェルダ―農場

ダイナミック農法とは土壌と植物、動物の相互作用だけでなく、天体の動きに着目した農業のこととなっていますが、ドイツの有機農法は単に農薬や化学肥料を使わないということではなく地質学的、微生物学的に生態系を崩さずにより自然に近い方法で農業のあり方を定義した自然農法です。

ドッテンフェルダ―農場は、現在敷地内に研究部門棟・学校(生徒は10人程)・飼料畑・家畜(鶏・牛・豚)棟・製品加工場・ショップが併設されており、従業員は160名程で基本的に自己消費を目安に行っています。搾乳した牛乳や収穫した穀物はエサや加工品で利用・販売していました。

② ジョン・ディア社欧州本部視察

本社は米国で、売上世界一の農業機械メーカーです。農業機械のショールームがあり、20台ほどの車輛が展示されています。ショールームを抜けると別



安全も優先されていました。

③ レリスタット周辺酪農(肉牛農家)・チーズ販売農家視察

オランダの牛肉は脂身がついているものがほとんどないそうです。話によると焼くと脂身がすべて消えて肉の内部に入るのだそうです。ライケン氏の牧場ではイタリアのマルキシアーナ種を肥育しており、牛舎内は日本の牧場のような独特の臭いが少なく、牛の性質にもよりますが、非常に清潔でした。

④ レリー社酪農機械視察

酪農機械及び農業機械製造全般
1948年にレリー兄弟によって創業され、農業による厳しい肉休労働から解放することを目的として設立されました。1992年には搾乳口ホットを制作し代表製品はアストロノートA4です。

オランダ酪農事業としては、一般的な人件費コストが時給2,000円近くと高額なため、1人当たりの生産性を高めるために、オランダでは施設の更新時に半数以上の牧場が搾乳口ホットを選択しています。



この研修で学んだことは農業の奥深さと考えているほど甘くない現実でした。しかしそこには喜びと楽しさが必ず付随しています。ただ辛いだけではなく、ただ楽しいだけではありません。ヨーロッパの酪農家を見たときに印象だったのが

楽しみながらやっている事でした。すべてに余裕があり、その余裕から生まれる発想や考え方がさらに良い牧場へと発展させていきます。当然その陰にある厳しさは知る由もないのですが、余裕のない業務の中に新たな発想など生まれるはずありません。

また、チームワークの良さです。個人でやるならまだしもチームとしてやっていく以上、輪を乱すことは許されません。例えばそれが年長者であるうと、経験豊富な人間でもです。

これは酪農家だけでなく、レリーやジョンディアを見たときにも感じました。工場内はすべて撮影禁止のためその様子は表せませんが、つまらなそうに仕事をしている人を見つけられませんでした。

今回の研修では、道内から農業従事者13名(他添乗員1名・事務局1名)の15名で視察してきましたが、他の地域の酪農家の方との交流も今回の視察の収穫でした。上川しか知らない自分にとつてこれは生涯の宝物です。現在もSMSで交流があります。今後も交流を通じて知識を深め、学び続けたいと思います。

最後に、ご協力頂いた関係機関の皆様のおかげで貴重な体験が出来たことに感謝申し上げます。簡単ではありますが報告とさせていただきます。





本物の食を大切に…

JA上川地区女性部研修大会

12月12日、JA上川地区女性部研修大会が旭川グランドホテルにて開催されました。

研修大会では、講演『美と健康は、ほんものの「食」にあり』と家の光活用体験発表会・家の光持ち寄り読書会・工夫展が行われました。

講演では、東川町在住のヘルシー料理研究家 横山アテナ（ルーマニア）氏を講師に自然の素材を古代伝統製法により活用した講演が行われました。

特に醗酵食の大切さについてお話しされ、一方でマーガリンなどは世界的に人工トランス脂肪酸として危険な食べ物として認識されていることなど、もっと情報に興味を持って、ほんものの食を大切にしてもらいたいとお話しされていました。



あの家の自慢料理を我が家でも!!

第6回元気な食をいただきますinあいべつ

12月4日、第6回元気な食をいただきますinあいべつが本所で開催され、女性部愛別支部の部員36名が参加しました。

藤原部長の「他の家で食べられている食事を味わって、我が家での食事を考える参考にしてほしい」との挨拶で始まり、部員が持ち寄った漬物やサラダ、お菓子など合わせて10品以上を味わいました。材料や調理法を解説する時間も設けられ、熱心にメモを取る人の姿も見られました。

さらに、参加者が持ち寄ったものを景品にしたビンゴゲームやじゃんけん大会も催され、大いに盛り上がりました。



ポールで骨格を整える。

平成26年度JA女性部フレッシュミズ交流会

11月17日、JA女性部フレッシュミズ交流会が遊湯ひつが（比布町）で上川管内から17名が集まり開催され、当フレッシュミズ部員6名も参加しました。

午前中は道フレッシュ代表者会議の報告と今後の行事日程を確認し、午後からは「ストレッチポールDEリンパコンディショニング」と題し、深谷佳子氏を講師に招き、ポールストレッチを行いました。ポールストレッチとは、ポールのうえに寝てエクササイズを行う事で、本来、人の手が届かない体の深層部にある筋群、関節をゆるめ、骨格を整える効果があるとのこと、参加者からは普段使われない部分を伸ばすことで、「痛い」となどの声も聞こえてくるなど、終始和やかに交流が行われました。

地区の女性協議会の役員の方々の託児サービスもあり、小さな子供がいても参加できる交流会です。来年はたくさんさんの部員のお持ちしております。



～愛別町産きのこの特徴を活かした料理方法について大きくPR～ 平成26年度ふれあいクッキング(料理講習会)終了!

愛別町産きのこの消費販売拡大の一環として、今年も全道各地でふれあいクッキング(料理講習会)を実施しました。

この催しは、愛別町産きのこの特徴をもっと知っていただき、料理に使っていただく機会を増やそうと食育活動の一環として協賛実施(主催:日本食糧新聞社北海道支社)しているもので、今年も昨年を引き続き、大株なめこと舞茸を中心にPR活動を行いました。

参加した皆さんからは、愛別町産きのこの歯ごたえの良さや食味向上への取り組みについて毎回お褒めの言葉をいただき、盛況のうちを終えることができました。

また、11月13日にはこの講習会を主催している日本食糧新聞社の方々がきのこの生産施設やその取組内容について視察にきてくださいました。

これからもより良い販売となるよう取り組んでいきます。



実 施 報 告

開催日	開催店舗及び学校	参加人数	メニュー
3月28日	コープさっぽろ旭川	27人	株なめことららの和風春巻き
4月22日	ホクノスーパー中央店	28人	舞茸入り炊き込みチキンライス
5月29日	石狩市食生活改善推進協議会	30人	時鮭と舞茸のホイル焼き
6月20日	コープさっぽろ旭川	35人	舞茸のオイル煮、水菜和え
7月2日	スーパーチェーンシガ余市全店	23人	手作りなめたけで和風コブサラダ
8月26日	北広島市立西部中学校	28人	舞茸とえのきのマリネ
9月11日	ホクノスーパー中央店	24人	秋鮭と舞茸の香り焼き
10月7日	イトーヨーカドー琴似店	35人	舞茸と秋鮭の揚げだし
11月21日	コープさっぽろ旭川	30人	きのこほうれんそうのHOT サラダ
12月11日	コープさっぽろ北12条店	33人	きのこのクリームスープ

～第1回北海道特産林産フェスティバルが東京(有楽町)で開催される～ 愛別町産きのこを大きくPR

愛別町産きのこの販売拡大の一環として、12月6～7日の2日間、東京交通会館(有楽町)で販売活動を行いました。

この催しは、農林水産省の「食のモデル地域育成事業」の一つとして、北海道特産林産連絡協議会(事業担当:北海道きのこ生産消費振興会)が補助を受けて実施したものです。

イベント期間中は、他のきのこ生産者(会社)や北海道(本庁・上川総合振興局)の職員も参加し、北海道産のきのこについて大いにPRしました。

また、このイベントは来年度(H27)も道の補助を受けて実施する予定です。



信頼される組織を目指して 平成26年度コンプライアンス研修会



一人一人のコンプライアンスに対する意識を高めることが重要であることを再認識しました。

不祥事の未然防止のために、

本年度は、上川中央部農協内部審査協議会内部審査員の野村祐司氏を講師に招き、『JAにおけるコンプライアンスについて』をテーマに、JAの生い立ちと源流を始めとし、近年発生している北海道の不祥事例等をもとに、講演していただきました。



26年産そ菜生産を振り返って 愛別町そ菜振興協議会・上川町畑作園芸振興会合同作況反省



27年度は高品質なそ菜の安定生産に努めていきます。

青果全般で平均単価は前年以上となりましたが、面積の減少や不純な天候により数量はやや減少しました。

ついでお話しした、

今後の販売動向、ホクレン旭川支所から大豆の販売概況、上川農業改良普及センターから気象経過を踏まえた生育分析と今後の課題についてお話しした、

反省会では、市場関係者から平成26年度の出荷実績をもとにした今後の販売動向、ホクレン旭川支所から大豆の販売概況、上川農業改良普及センターから気象経過を踏まえた生育分析と今後の課題についてお話しした、

関係者も招き、本所で開催されました。

12月11日、愛別町そ菜振興協議会・上川町畑作園芸振興会合同作況反省会が生産者25名と市場および日頃よりお世話になっている関係者も招き、本所で開催されました。

するーらいふ

古い映画館である。すでにその灯を消して何年にもなる。旭川市内の旧国劇は、今定期的に市民グループによる映画上映が催される。

暮れの12月「夢は牛のお医者さん」の上映会に出掛けた。レトロな雰囲気に至る所に伺え、それだけで幸福感を感じた。しかし、こんな地味な映画に観客は足を運ぶのだろうかと思っていた。会場に入ると異様な熱気があり、満員状態だった。新潟県の山間部松代町筋平(アザミヒラ)小学校が舞台である。

昭和62年新入生児童のいない年だった。校長の発案で3頭の牛の入学式が行われた。児童達が責任を持って育て、体重が400キロになったら卒業する条件であった。スクリーンでは牛の入学式の模様始まり、26年間に及ぶ記録が、誇張することもなく飾ることもなく映し出された。山里の長閑さと優しさ、そして冬の厳しい現実が伝わって来た。筋平小学校で牛の入学式と卒業式を体験した児童のひとりが、大きな夢を掲げた。牛の世話に明け暮れ、牛の卒業式で泣き崩れた児童は、獣医を将来の夢とした。夢を育ててくれた筋平小学校は、平成4年に廃校となった。しかし、夢を追い求める彼女は、親元を離れて高校生活を送った。その当時の映像もスクリーンにあった。井の中の蛙であることを思い知らされた。成績のレベルが夢の実現とかけ離れていることが分かった。下宿の部屋が映し出される。テレビはない。勉強をする机代わりの炬燵だけである。夢の実現に向けてテレビは無縁のものとした。高校生活の終盤では、眼を見張るような成績を修める様になっていた。夢は1度と決めていた。岩手大学農学部獣医学科、狭き門であった。父が娘を心配して、受験の日に大学まで送って来たことが映し出される。筋書きのないドラマを映画監督は追い続けた。帰省していた自宅に合格の手紙が届いた。牛の背中を追い続けた小学生の児童は、夢の入り口に辿り着き成人式を故郷で迎えた。当時の仲間も自分達の道を、しっかりと歩いていた。獣医学科は6年制である。セミナーと実地で、現場での技量を習得する。獣医の国家試験を受験する彼女がいる。

筋平地区で飛び跳ねていた児童は、最後の関門に立つ凜凜しい女性になっていた。1度の挑戦でその壁も越えた。愛する祖母が贈ってくれた愛車で、故郷の畜産農家の牛たちを見守る彼女がいる。2人の子供を保育園に送る姿も映し出される。26年間に及ぶ爽やかな、夢を求めた児童の物語である。松代町は新潟の指折りの豪雪地帯である。

※このコラムは連載です。



歩夢

第11回
「上川町」

～大雪の景観（ふるさとの詩）



稲刈り後の田舎

夕日に映える大雪山系の美しい山並みに見とれながら。本田喜市はしばらくの間、越路峠にたたずんでいた。「美しい景色だなあ。これを見るといつも心が洗われるようだ。日頃の苦労も忘れてしまう」と、開拓入植時の思い出を嘸みしめる。

旭岳や石狩岳はもとより黒岳から北鎮岳まで秀峰大雪山系の輝きに一同は見惚れていた。

ハッカ売りの帰りである。宮城県人の本田喜市夫婦が5人の子供を連れ一家で愛別原野越路の一角に入地したのは明治28年3月であった。大地を塞ぐほどの草や木を切り開いてソバ、ナタネ、イナキビ、イモを作る。だが、草小屋近くに熊がうろつくのだ。3人の娘達は昼間でも震えながらの開墾である。土地は肥沃だったものの大雪山系の麓だけに海拔350メートル。寒さがひとしおだし9月下旬には早くも霜。これにはお手上げをした。作物は野鼠にやられ、やっと飼った鶏も足が凍傷ですりこぎのようになった。ランプ壺の石油が灯をともしているのに凍りつく。人といえば時には砂金掘りが彼の家に一宿一飯の時を重ねながら奥地にと入り込むだけ。彼の入地に続き開拓者が相次いでから10年目の年…。

入植者の一人西木栄作がハッカ苗を植えた。その弟の西木啓次は苗を増殖する。肥沃な地はハッカに適した。しかも、蒸留し取卸油にして売るから運搬が楽だ。奥地の開拓地ではまたない適作物だと、またたく間に広がる。明治43年には西木啓次も2町5反。大正の初期にかけて相場は上がり第一次ハッカブームである。そこにサミュエル事件が起きる。サミュエル商会横浜支店は生産者との間に売買契約を結んだ。ここでは、生産者代表が愛別村の角田栄吉。立会人は村長太田竜太郎。契約の販売価格は一斤4円50銭、一組9円とし値上がりの時は差額を両者が折半ということだった。この秘密協定は他の商社の知るところとなり、商会との契約により1～2円高で買いに回る。農家は契約を忘れて高値の方に売った。サミュエル商会はハッカが集まらず契約不履行で裁判沙汰となった。大正4年である。ハッカ値はこれによって大暴落をするが、変わって第一次欧州大戦でデン粉景気に沸いた。大正2年に12貫1箱6円だったものが同6年には11円。8年には15円となって全村で1万2千袋のデン粉生産を記録した。畑がイモの花で白く埋まった大正8年をピークに終戦で価格は暴落をする。そうやってみて農家は過磷酸石灰だけで作物を作り続けヤセ細った地力に気がつく。

もう景気のいい作物は無かった。その時、水田農業への転換を唱えたのが中条忠作や塚塚慶吉である。上川村で最も早く稲作を始めたのは内田仁蔵で明治33年。小沢の水を利用し角田早生で収穫をあげた。だが、水が不足で大面積を作れない。灌漑溝を掘って水を引いたのが上安足間（東雲）の私設水利組合である。大正2年、中条忠作や松浦要平であった。大正3年には175町に水を引く。同じ頃塚塚慶吉は下ルベシベ水利組合を作って造田にかかる。とりわけ中条忠作は稲作に熱心であった。水利組合長となって稲作の普及に奮迅する。

だが、病に倒れ大正12年に他界した。その時、息子の護を枕もとに呼んだ。「いいか。面積の少ない上川農業で生きるには稲作しかない。ここは山に近いがやり方によっては良い米は取れる。水温を高める努力を忘れるな。そして、必ずや北海道産米二百石記念には、上アタロマの米を入賞させるんだ」と、息子の手をしっかりと握って言った。護は父の言葉を忠実に守った。農林六号を取り寄せ、水を何回も回り通をさせて水温を高める苦勞もした。そして、彼の収穫した米は全道共進会で見事に三等に入賞したのである。忠作三回忌の大正14年であった。こうして水田は上川村内に広がる。だが、昭和初期の連続の冷害は稲作に期待をかけた農家の希望を打ち砕く。とりわけ山村で霜の早い上川村の打撃は大きかった。この時、冷害農家を救ってくれたのは“山”であった。馬を持って一斉に冬山造材に入った。上川町の78%は国有地つまり国有林です。それに道有林があり、一町に営林署が二つあるのも珍しい。かつては木工場が20もあり町の住人と“山”とは切っても切り離せない。農家も戦前は冬山稼ぎが当たり前だった。薪の払い下げを受け自家用を除いてあとは町に出して売ったもの。街には“薪屋”をいう商売が成り立っていた。

雪道をバチバチに丸太を山と積んだ馬ソリの列が長く続いた。更には流送に造林にと山仕事との縁が深まっていく。と言って山仕事だけでは生活が成り立たない。ハッカが盛り返し半農半労が定着したのも一戸当たり経営面積が小さい事と関係があらう。農家は秋払いで商人から物を借りて来るものの、秋には手元に一つも残らないだけ商人に持って行かれた。

これではいくら山稼ぎをしても暮らしは成り立たん——。と言うので昭和9年に産業組合が生まれた。組合長西本嘉市。「私が書記で他に大方春一と三人で始まったんです。販売は米と豆にハッカも扱った。農業収入が増えて山に頼らなくなったのは戦後しばらくたってからです。」と水谷隆。山仕事が機械化されチェーンソーとトラックで農家の出番が無くなった事も原因だろう。

また、戦後には稲作安定のための水温上昇施設も作られている。大雪山系から流れる清く豊かな水を利用して、ここでは淡水魚の養殖が戦前から盛んだった。戦後はこれに畜産が一枚加わって大型畜産、酪農の共同経営が生まれている。また、大雪の山に魅せられた男たちのロマンも数多い。「大雪ならでは…」を求めて、写真家が、昆虫家が、植物学者が、ついにはこの地に住み着いてしまっているほどだ。

かつて、最初の入植者本田喜市の足をくぎづけにした越路峠は、明治9年6月21日、松本十郎（松本判官）が三角小屋を作って宿泊し、大雪山系の美しさに「我を忘れた」景観の地でもある。本田喜市の入植地には開拓記念碑が立てられ、大雪の山並みと共に遠い開拓の時代を今に引き戻してくれる。

この連載は「愛別町史」、「上川町史」他を元に編集・作成しています。

JAのあゆみ

12月

- 1日 農協懇談会（JA女性部）
農協懇談会（JA青年部）
国営緊急農地再編整備事業促進期成会
第1回二役会議
- 2日 JA上川中央役員視察研修
（～4日 帯広・苫小牧方面）
- 4日 第6回元気な食をいたたきますinあ
いべつ（女性部 愛別支部）
- 6日 農協懇談会（畜産振興会）
農協懇談会（きのこ）
- 8日 定例企画会議
第3四半期監事監査（～11日）
- 10日 上川地区連合会・農事組合長合同会議
愛別町野菜振興協議会・上川町畑作園
芸合同作況反省会
- 12日 愛別町農業者年金協議会代議委員会
及び研修会
- 15日 愛別町農業青色申告会 税務研修会
上川町農林振興協議会
- 16日 JA上川中央女性部合同役員会議
- 18日 相川東青色申告会農業部会総会
- 19日 農家経済対策委員会
- 25日 愛別町農業青色申告会
年末調整講習会
- 26日 第11回定例理事会
愛別町農業再生協議会上副会長会議
上川町法人合同忘年会
- 30日 総務・営農販売・営農振興・金融・
資材・農機・上川支所 仕事納め
Aコープ・スタンド 仕事納め
- 31日



第10回理事会

平成26年11月26日開催

- 1 報告事項
平成26年度JA共済コンプライアンス点
検結果について
- 2 各委員会の報告について
第6回農家経済対策委員会並びに第4回営
農経済専門委員会の開催内容を報告した。
内部審査協議会監査の結果について
本支所の営農振興・営農販売で実施され
た内容について報告した。
反社会的勢力等との取引排除に係る顧客
属性システムによる定期確認の報告について
調査結果について内容を報告した。
- 3 固定資産の取得について
本所22号倉庫の雪止めについて取得内
容を報告した。
- 4 組合員の加入報告並びに組合員資格について
6名の加入並びに1名の資格変更が承
認された。
- 5 組合員の相続並びに譲渡について
1名の相続について承認された。
第3四半期見直し計画について
見直し内容について説明し、承認された。
臨時給与の支給基準について
支給基準について承認された。
- 6 農事組合活動助成金等の支出について
活動助成等の単価について承認された。
資金の融資について
短期2件長期2件の融資について承認
された。
- 7 理事に対する資金の融資について
1名の理事に対する融資について承認された。
平成26年産飼料用米に係る仮渡について
平成26年対象数量に対する仮渡金につ
いて承認された。
- 8 平成27年営農計画書単価基準の設定に
ついて
営農計画書作成に伴う基準単価につい
て承認された。
- 9 ハウスリース資産の取得並びに貸付につい
て
4件に対する取得並びに貸付が承認された。
- 10

組合員のうごき

（平成26年11月26日現在）
正組合員戸数 389戸
組合員数 2,660名
うち正組合員数 604名
うち正団体数 34団体
うち准組合員数 2,056名
うち准団体数 71団体

1月30日(金)・31日(土)棚卸による営業時間変更のお知らせ

事業年度末の棚卸業務により、営業時間を変更させていただきます。
皆様にご不便をおかけしますが、ご理解よろしく
お願い致します。

- 1月30日(金)
・資材店舗(本所・支所)・農機センター / 休業
- 1月31日(土)
・Aコープ(あいべつ・かみかわ) / 9:00～15:00 短縮営業
・ホクレン給油所(愛別・上川) / 8:00～17:00 短縮営業

今月号の表紙

清らかな石狩川の流れ

(中央地区)

まちがいさがし

右のイラストには左のイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を探しましょう。



先月の答え

- 1…木の枝が細くなっている
- 3…おばあさんが居眠りしている
- 6…餅が途中で切れている
- 8…頬にあんこが付いている
- 10…丸餅が切り餅に変わっている

出題・イラスト：酒井栄子